

## 令和3年度 第1回学校評価結果

生徒・保護者・職員ともに4段階で評価。「4:そう思う」「3:ややそう思う」の肯定的な評価をつけた人の割合が74%以下を課題としてとらえ、分析考察を行っています。

### 課題(7月)

生徒	<p>8. 私は学校の授業の内容が理解できていてよくわかる。(72%)</p> <p>11. 私は毎日の家庭学習(課題、宿題)をきちんと行っている。(70%)</p> <p>13. 私は、毎日元気な声で心をこめたあいさつをしている。(61%)</p> <p>14. 球美中は、いじめのない学校である。(68%)</p> <p>16. 私は、体力テストの結果から、今後自分が何を鍛えればいいのかわかる。(72%)</p> <p>17. 私は、基本的な生活習慣(ことばづかい、早寝早起き、マナー、家庭学習、TVの視聴時間、ゲームの時間等)が身についている。(72%)</p> <p>18. 私は、保護者に学校生活の様子についてよく話をする。(66%)</p> <p>19. 私は、保護者と自分の将来の夢や希望について一緒に話し合っている。(68%)</p> <p>22. 私は、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加している。(61%)</p> <p>23. 私は、学校や学級で過ごすことが楽しい。(66%)</p>
保護者	<p>8. 子どもは、学校の授業を理解しよくわかると言っている。(70%)</p> <p>10. 子どもは、「今、学んでいる教科の学習が将来の進路や生活に役立つ」と考えていると思う。(72%)</p> <p>11. 子どもは、毎日、家庭学習(課題、宿題)をきちんと行っている。(72%)</p> <p>23. 子どもは、学校が楽しいと言っている。(充実した学校生活を送っている)(72%)</p> <p>24. 町、地域の行事や活動に関心があり、できるだけ参加している。(73%)</p> <p>25. 子どもの様子に変化があれば、すぐに関係教職員に連絡している。(68%)</p>
職員	<p>2. 環境整備や整理・整頓を積極的に行い、学習環境を整えている。(75%)</p> <p>3. 連携型中高一貫教育についてその目的やねらいをきちんと理解し、生徒や保護者に内容や取り組みを伝えている。(75%)</p> <p>8. 毎時の授業で、めあての提示、めあて達成のための授業展開、まとめと振り返りを行っている。(83%)</p> <p>11. 家庭学習の習慣化に向けて、計画的に教科課題(宿題)を与え評価することに努めている。(67%)</p> <p>16. 体力や運動能力を保持・増進させるための指導に努めている。(83%)</p> <p>21. 生徒が島に愛情と誇りを持ち、住んでいる地域に愛着を感じるような指導に努めている。(83%)</p> <p>22. 生徒に対して、地域行事等への積極的な参加を促している。(75%)</p>

### 考察

- ・例年と比較して、否定的評価を付けた生徒が多くなっている。肯定評価90%以上が皆無である。
- ・項目8の「学校の授業の内容を理解している」と項目11「毎日の家庭学習(課題、宿題)の習慣化」は、生徒・保護者・教師の三者が揃って低い評価を付けている。
- ・項目14の「球美中は、いじめのない学校である」と項目17「私は、基本的な生活習慣(ことばづかい、早寝早起き、マナー、家庭学習、TVの視聴時間、ゲームの時間等)が身についている」は、生徒だけが低い評価を付けている。特に、教師や保護者が気づかない「いじめ」が存在することが考えられるので、早急な対応が求められる。

れる。(例えば、QUアンケートの結果分析と対応の共通理解、共通実践)

- ・項目18、19から、生徒は家庭であり学校のことや自分の将来について会話をしていない。
- ・項目22「地域行事やボランティア活動参加」が落ち込んだのは、新型コロナウイルス感染拡大防止のための沖縄県緊急事態宣言発出の影響が大きいと考える。
- ・項目23「学校や学級が楽しい」は学年が上に行く程評価が下がっている。勉強が難しくなるから、進路の悩み等理由は複数考えられるが、充実感や達成感を味わえるような取組で、自分の成長を実感出来る場面を工夫する。

## 改善策

知	<ul style="list-style-type: none"><li>・講義形式中心の従来型授業からの脱却し、主体的・対話的で深い学びの授業へ転換を進める。</li><li>・生徒が主体的に学ぶ授業へと転換し、授業を通して「学び方」の育成を図り、自律的な家庭学習へと繋げる。</li><li>・学校の諸活動で「めあて」と「振り返り」の時間を設定し取組後の自分の成長を実感させる。キャリアパスポートを活用し将来を考え、目標を持ち、努力する習慣を身に付けさせる。</li></ul>
徳	<ul style="list-style-type: none"><li>・道徳教育、道徳科の授業で、きまりの意義や価値の理解を深め、安心感のある学級づくりに取り組む。</li><li>・特別活動(学級活動や生徒会活動)で自治的な活動を活性化し、生徒一人一人に活動の場をつくる。</li><li>・生徒の自己肯定感の高まりと学び・育ちの実感を体現できるよう組織体制での取組を工夫する。 承認情報カード(Happy Board)の取組、キャリアパスポートの活用</li></ul>
体	<ul style="list-style-type: none"><li>・保健体育の授業(健康授業等)で望ましい生活リズムの確保と感染症予防の正しい知識を身に付けさせ、自己管理能力を養う。</li><li>・特別活動で、生活習慣チェックシート等を活用して自らの生活について客観的に見つめ直す機会を持ったり、生徒同士の意見交換を通して生活の具体的な改善策を考え実践に努める態度を養う取組を行う。</li></ul>
郷 連 携	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校からの各種お便りやホームページ、メールやラインを活用した情報提供を行うとともに、電話や教育相談で家庭との連携を密に行う。</li><li>・ボランティアカードを発行し、新型コロナウイルス感染状況を注視しつつ地域のボランティア活動への参加を促す。</li><li>・研修等で連携型中高一貫教育についての理解を深め、早い時期から生徒や保護者に情報を提供する。</li></ul>